

「シジュウカラの営巣(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



シジュウカラは、早朝に1日1個ずつ卵を産む。産んだあとは、昼間に抱卵することは決してなく、すぐに巣から出ていってしまう。体に卵をつくるのも、産卵にもエネルギーが必要なため、すぐに栄養補給が必要なのだろう。

昼間に抱卵しないのには、もう一つ理由がある。シジュウカラは1回の繁殖期に6~10個もの卵を産む。一日中抱卵していると、先に産んだ卵が先にヒナになってしまい、具合が悪いのだ。できるだけ孵化日を揃える為の行動なのだろう。



しかし夜間は産座の上で、抱卵しながら眠る。一回眠りにつくと、2時間ぐらい呼吸以外は全く動かない。このあたりは6月下旬でも、夜間は気温が10°C近くまで下がるので、抱卵が必要なのだろう。



翌朝、メスは巣から出ることなく、産卵行動に入る。産卵の30分ぐらい前に起きて、しきりに体を動かし、産卵のタイミングを見計らっている。今までの観察では、夏至前後に営巣した場合、午前4:45から5:15の間に産卵することが多い。およそ日の出の時間帯と一致している。



2卵目、3卵目とも無事に産座に入っている。赤外線カメラなので真っ白に見えるが、実はシジュウカラの卵には、ごま塩のような模様がついている。